

東京 21 合唱団



第 17 回コンサート

■ 讃美歌21より

父・子・聖霊に
キリエ
グローリア グローリア
われらは信ず(Credo)
聖なるかな 聖なるかな(Sanctus)
あゆませてください
世の罪除く
主が受け入れて下さるから
共にいてください

■ 聖チェチーリアミサ曲 C.グノー

Messe solennelle en l' honneur de Sainte Cecillie
/ Charles Gounod

指揮	佐々木 正利	ソプラノ	藤原 優花
オルガン	飯 靖子	テノール	西野 真史
ピアノ	三好 恭子	バリトン	及川 泰生

2023
11/17 (金)

18:30開場 19:00開演

チケット料金 2000円

【全席自由】※当日券あり

■公式HP

<https://21chor.tokyo/>

■お問い合わせ

info@21chor.tokyo

日本キリスト教団 霊南坂教会

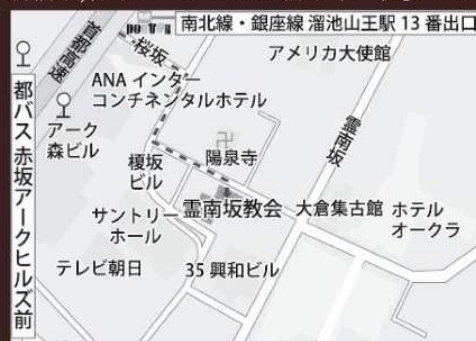
〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目14番3号

東京メトロ南北線 六本木1丁目駅下車 徒歩5分

東京メトロ南北線・銀座線 溜池山王駅下車 徒歩6分

東京メトロ日比谷線 神谷町駅下車 徒歩8分

都営バス 都01(渋谷駅~新橋駅)赤坂アークヒルズ前下車 徒歩5分



東京21合唱団

『讃美歌21』のCDシリーズ最終巻、第10巻『ここを一つに』（ビクターエンターテインメント、日本基督教団出版局共同制作）を、教会の礼拝の中で実際に讃美歌を歌っているものの演奏で録音するために結成された合唱団を前身とし、佐々木正利氏・飯靖子氏を指導者として2002年6月に発足しました。讃美の歌を学び続けたいという思いをもち、各地の教会での奉仕や、年1回の定期演奏会などの活動を行っています。

指揮 佐々木 正利

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程及び博士後期課程修了。1980～82年デトモルト北西ドイツ音楽大学に学ぶ。1973年バッハの福音史家で楽壇デビュー以来、国際的バッハ歌手として数々の大舞台に出演。特に1980年ウィーン楽友協会でのマタイ受難曲や1985年ザルツブルグ音楽祭でのマニフィカト等では「世界最高のバッハ歌手の一人」と絶賛された。また、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ベルリン交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、アムステルダム・フィルハーモニー管弦楽団、国立ブカレスト交響楽団、NHK交響楽団、ドイツ・バッハゾリステン等、国内外のトップオーケストラと共演。ライプツィヒ聖トマス教会聖歌隊、シュトゥットガルト・ゲヒンゲン聖歌隊、ベルリン聖ヘドヴィッヒ聖歌隊、RIAS室内合唱団等、世界的合唱団のソリストを度々務め好評を博す。在独中westファールン州立歌劇場等で「コジ・ファン・トゥッテ」「フィデリオ」「グリゼルダ」等に出演。

1982年日本に戻ってから40年間、多くの国際的歌手を育て上げ、また大学教授など多くの優れた指導者を輩出している。1994年長年にわたる顕著な演奏・教育の業績に対し、第47回岩手日報文化賞が贈られ、2011年には日独交流150周年を記念してドイツ大使館より日独友好賞（功労賞）が贈られた。

現在、岩手大学名誉教授。日本声楽発声学会会長他、複数の学会の要職も務める。二期会会員。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団、東京21合唱団、岡山バッハ・カンタータ協会、各指揮者。バッハ・アンサンブル富山、岩手大学合唱団、東北大学混声合唱団、各常任指揮者。山響アマデウスコア、豊中市民第九合唱団、各音楽監督。熊友会ヴォーカル・アンサンブル代表。二期会バッハ・バロック研究会講師。

オルガン 飯 靖子

桐朋学園大学ピアノ科卒業、国立音楽大学大学院オルガン科修了。ピアノを野辺地勝久、高良芳枝、オルガンを吉田實、左近和子、チェンバロを鍋島元子、作曲を末吉保雄の各氏に師事。8回にわたり渡独しオルガンをH. ケストナー、W. シュテリヒの各氏に師事。ソロ活動のほか、室内楽や宗教曲のオルガンパート、合唱伴奏、新曲演奏など幅広い分野で担当。

日本基督教団霊南坂教会オルガニスト・聖歌隊指揮者、元青山学院女子短期大学教授、日本基督教団讃美歌委員会委員。日本オルガニスト協会会員。東京21合唱団音楽監督。キリスト教放送日本FEBC「主に向かって歌おう」パーソナリティー。

ピアノ 三好 恭子

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。チェコ政府給費留学生としてプラハ音楽院に留学。さらにスイスおよびフランスにてマスタークラスに参加し研鑽を積む。1998年ボフスラフ・マルティナーコンクールピアノ三重奏部門にて審査員特別賞受賞。プラハおよびチェコ各地にてコンサートに出演。帰国後はソロ、室内楽、歌曲伴奏など幅広く演奏活動を行っている。2000年より東京にて8回リサイタルを開催。2007年3月のリサイタルでは「音楽の友」「ショパン」両誌にて好評を得た。2011～2012年に筑波大学附属視覚特別支援学校音楽科に勤務。2017年5月～6月にはチェコ各地にてコンサートに出演。

日本ドイツリート協会会員。

ソプラノ 藤原 優花

岩手県北上市出身。岩手大学を卒業後、東京藝術大学声楽科を経て現在同大学院声楽専攻修士2年次に在学中。第11回東京国際声楽コンクール大学生の部第3位。東京国際芸術協会新人演奏会にて優秀新人賞受賞。カンタータやモーツァルト『レクイエム』など宗教曲のソリストを務める。Carmen Santoro、Markus Hadulla各氏の講座を受講。

これまでに声楽を佐々木正利、菅英三子、平松英子の各氏に師事。

テノール 西野 真史

岩手県盛岡市出身。岩手大学教育学部卒業、同大学院修了。声楽を佐々木まり子、多田羅迪夫、佐々木正利の各氏に師事。G・テュルク、S・スミツ各氏による公開レッスンにてドイツ歌曲や宗教曲等の研鑽を積む。宗教曲のソロを度々務め、福音史家としての表現力に高い評価を得ている。P・シュライヤー指揮バッハ「ヨハネ受難曲」のテノールソロでは指揮者より絶賛された。

現在、混声合唱団北声会常任指揮者。盛岡大学、同短期大学部非常勤講師。

バリトン 及川 泰生

岩手県盛岡市出身。岩手大学教育学部学校教育教員養成課程音楽コースを卒業。東京芸術大学音楽学部声楽科を経て、現在、同大学院音楽研究科修士課程声楽専攻1年次、二期会研修所予科クラスに在籍。声楽を小原一徳、佐々木正利、米谷毅彦、萩原潤の各氏に師事。

